

# 優良賞

## 十円の体得

譚 娇 娇

TAN JIAO JIAO

このタイトルを見ると、人は何かなあーと感じるかもしれません。なぜ“十円の体得”をタイトルにしたか、それは私が日本に来て初めて経験したことを書きます。

十円ではほとんどの物が買えません。日頃のそのような考え方が後日に重大な結果を生むとは想像しなかった。

その日は会社が休みでした。家に居てもつまらないので、外出をしました。足をデパートに向け買い物をしました。あちらこちらを見て、足が前に踏み出さないくらい疲れました。帰りの電車ではうつらうつらとしながら梅田の駅に着きました。次はバスの乗り換えです。疲れている時ほどバスが仲来なくてイライラしていました。やっと席に座って「フー」と長いため息を出したほどです。全身の重みをリラックスさせる為にMPで音楽を聞き、心の満足感を味わっていました。

目的地に近づきバス賃を用意しようと財布を開けたところお金が足りないのです。その時、私の疲労や眠気や心の満足感はいっぺんに飛んで行き、頭の中は真白になりました。どんなに数えなおしても190円で十円足りません、一瞬警察や会社の事が頭に浮び、帰国させられるのではと自分の膝ががくがくしてきました。目的地のアナウンスがあり、消えてしまいたい気持ちで立ち上がりました。そして恥ずかしい気持ちで

ドライバーにゆっくり近づいて行きました。「すみません、私のお金が足りません、1万円札を細かくしてくれませんか」「あ、それはちょっと無理です。千円札はないですか」「どなたか両替はできませんか」と運転手は乗客の方に呼びかけましたが返事はありません。私は顔を真赤にして「190円しかないのです」と話しかけました。その後方から「お嬢さん私が10円さし上げましょう」とやさしい声が聞こえました。

私は驚き、何と書いていいのかとまどいたたずむばかりです。受け取るべきか受け取らざるべきかためらっていると、その見知らない女性は「大丈夫ですよ、恥ずかしがらで、ぞうぞ」と温かく言ってくれました。運転手も「大丈夫、あなたの持っている硬貨を全部入れて下さい。次回に乗る時、210円を入れてもらって結構ですよ」と軽くうなづいてくれました。私はお礼を言い、待ってもらった乗客の方に体を向けて深深とお辞儀をいたしました。

こんなことがあってからというもの、十円を大切にし、また日本人の親切さや相手を信頼してくれるドライバーに感謝しました。この経験を体得したことによって私は一回りも二回りも大きくなりました。

区 分	技能実習生
国 籍	中国
職 種	金属プレス加工
受入れ企業	株式会社カサタニ
受入れ団体	オール電算協同組合